

2005年（平成17年）9月16日（金曜日）（1）

測量最上位資格24人誕生

日本測量協会が第1回認定試験

空間情報総括監理技術者

日本測量協会（中川一郎会長）が、今年3月に創設した「空間情報総括監理技術者」の第1回認定試験がこのほど実施され、測量最上位資格者として24人が誕生した。

試験は書類審査を通過したもの、筆記試験を行い、その合格者に対し面接試験を実施。今回、応募者は72人で、書類審査通過者は49人。筆記試験合格者は24人で、面接試験では全員合格した。合格率（対応募者）は33%、合格者の平均年齢は44・7歳、最年少は37歳で、最高齢は58歳だった。

は5年で、更新には同協会が実施する測量技術者継続教育証明制度（測量CPD、14日現在の登録者数3002人）において、5年間で25ポイントの取得が必要。

同資格は、測量を含めた空間情報分野の高度な専門知識と豊富な知見・経験を有し、それらを利活用するための製品・品質仕様の策定や運営管理の立案などの能力を有し、実際に実行できる技術者を認定。国土交通省国土地理院の資格基準にある測量上級主任技師の職種と同等クラスの技術者として、同協会が認定する民間資格。

日本建設情報総合センター（JACICC）が発注する提案型入札業務の

指名参加条件に利用できない予定であり、品確法を踏まえた各種提案型入札業務の指名の際の評価要素として利用されるように、国交省をはじめ関係機関に働きかけていく。

測量といった狭量な範囲から、それを包含した空間情報とすることで、業務全体を見据えたコスト削減のほか、電子地図などのGIS（地理情報システム）をはじめ、測地、リモートセンシングなど広範囲への適用や、全国測量設計業協会連合会が要望している総合評価方式での活用などが期待されている。

今後毎年1回、同様な時期での実施を予定している。

内訳は、大手測量会社が21人、地方中堅・コンサルで3人。首都圏を中心に関東以西の地域で輩出した。資格の有効期間